

第10回QCサークル改善大会を開催しました

2023年12月1日(金)に第10回QCサークル改善大会を本社工場にて開催しました。QCサークル改善大会は、常日頃から取り組んでいる各部署の改善活動の成果を発表する場として、トヨタケ工業では年2回開催しています。



・・・受賞サークル・・・

かなりの僅差だったため、特別に金賞2サークルの表彰といたしました。

《金賞》 トヨタケ社會（稲武縫製）“箱の中身の改善”

《金賞》 team tapestry（総務経理） “多能工化でレベルアップ”

《銀賞》 美ライン（稲武縫製）“箱の中身を改善して生産性アップ”

《銅賞》 オールセーフ（稲武縫製）“不具合を減らそう”

《優良賞》

岩村（岩村縫製）“縫い代小撲滅”

TEAM SHIMA Ⅲ（裁断）“手待ち時間の有効活用”

営業生準（営業生準）“試作について”

他部署の人が聞いても分かりやすい内容が多く、審査員からも労いの言葉が多くかけられました。以下は弊社代表の横田のコメントです。今後も、働きやすい職場を目指して頑張ります。

QC サークル活動について

今回も現場の変化が多く、活動や発表はできるのだろうかと個人的には心配していましたが、皆さん素晴らしい事例ばかりでとても良かったと思います。縫製のミシンラインでは偶然二つのサークルが同じテーマで発表を行い、解決方法が微妙に違ったり、事務部門、製造間接部門、新規の取り組みなどとても参考になる事ばかりでした。

しかし、製造業として製造ラインを止めてまで活動をしたり、発表会をする意味はあるのかと、社内外から聞かれます。当日、もやもや活動しているメンバーもいると思うので、総括として私から以下の三つの理由で活動を続けるとお話ししました。

- ① 仕事は一人では絶対できない。何らかの協力が必要なのでグループで話し合いの場を持つことは絶対必要
- ② 必ず問題は発生するから解決が必要。みんなが同じ解決手法を理解するのが効率的

具体的には、数字で問題を把握、真因を対策しPDCAを回す事

- ③ 活動のまとめをして、シェアし参考にする。発表というまとめにするとわかりやすいし、お互いの仕事の理解が進み、更なる改善につながる

実際、どんな仕事でも、本当の付加価値（要するに加工やサービスをしてお金をもらっている時間）は半分もないと思います。スキーでも実際滑っている時間とリフトの待ったり乗ったり、休憩したり、滑ってる時間の方が短いですよ！？同じく仕事の時間のほとんどは付加価値作業の為の色々な作業だったり、トラブル対応だったり。なので、これらは効率よく、ぶり返さないようにやっていきたいものです。QC サークルという活動は月間 170 時間の内、毎週 15 分 X 4 回の 1 時間で、それで一日の半分のムダが少しでも減って、それが毎月よくなり、働きやすくなると思うと、QC サークル活動をやった方がいいと思いませんか？

活動で話し合いをしたり、リーダーさんがまとめたり、発表者が練習をしたり、確かに大変な事もあると思いますが、これは仕事として、続けていく事が大切で、忙しさにまけてやらない職場とは大きな差が蓄積されていくと思っています。

今後も活動を続け、良い成果の積上げをみんなで称賛しあいたいと思います。